

水稻の育苗準備

【1. 床土の混和】

項目		1箱当り	1袋当り箱数	包装単位	備考	
標準的な床土	選択	ナエファイン粉剤	8g	125	1 kg	1成分
		タチガレエース M 粉剤				2成分
	選択	① 稚苗 2 号(585)	30~40g	500~667	20 kg	
		② サイコー11 号	12~15g	1,000~1,250	15 kg	
	選択	① ピートモス	0.4 ㍓	約 300	約 107 ㍓	
		② ハイフミン	200g	50	10 kg	
	過リン酸石灰(粉状)	10g	2,000	20 kg	PH調整、発根促進	
他		ゼオライト	100g	200	20 kg	保肥力向上
		エコロンG 413-M100	40g	250	10 kg	稚苗(585)は 20g/箱に減量
		パダン粒剤 4	30g	100	3 kg	害虫 1成分
		ヨーバルトップ箱粒剤	30g	300	9 kg	いもち病・害虫 2成分 播種時、床土混和

【2. 水稻ばか苗病対策と消毒～催芽手順】

1) 消毒前

消毒～催芽を行なう格納庫等に乾燥・調製設備がある場合は、設備周辺を清掃し、籾殻や米ぬか等を出来るだけ除去する。

2) 消毒時：テクリードCフロアブル（水温が上がる4月上旬より開始）

- ①同一の容器（オケ等）に異なる品種を入れ消毒しない。
- ②適正な薬剤使用方法で行う。水温が10℃以下と低い場合は、休眠性が逆に深まる場合がある。
- ③消毒・浸種時は容器にフタをし、外部からの「ばか苗菌」等の侵入を防ぐ。

水温	希釈倍率	浸漬時間
10℃~15℃	200 倍	24 時間

希釈例	種子量	水	テクリードCフロアブル
種子 100 kgの場合	100 kg	150ℓ ~200ℓ	750ml~1ℓ
オケ 500ℓ の場合	200 kg	300ℓ	1.5ℓ (3 本)

※ 水温が低い場合の消毒【参考】

ハトムネ催芽機等で水温 20℃~25℃程度の“ぬるま湯”を作る。ぬるま湯を種子消毒する容器に移し替え、「テクリードCフロアブル」200 倍で希釈する。その後、容器にフタをして24 時間浸漬する。また、催芽機を運転しての消毒では、籾の割れた部分より薬剤が侵入しやすく、薬害が懸念されることから、消毒中は水を動かさない。

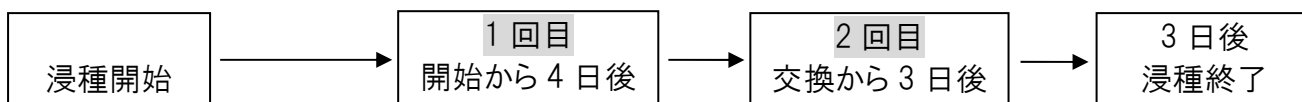
(裏面あり)

- ◆ J A S有機栽培等では、温湯消毒と微生物農薬（エコホープDJ、タフブロック）を併用して消毒する。温湯消毒後は種籾が無菌状態となるため、微生物農薬は温湯消毒直後に使用する。
- ◆ 温湯浸法（60℃、10分間浸漬処理）…「乾籾」又は「塩水選直後」に処理。種籾が吸水した状態で処理すると発芽率が低下するため注意。
- ◆ 「エコホープDJ(受注販売)、タフブロック」 苗立枯れ病・ばか苗病・もみ枯細菌病
水温 10～15℃・200倍・24～48時間浸漬 【使用例】エコホープDJ 500g:水 100ℓ :種子 50kg
※温湯消毒の場合、籾の呼吸が活発になるため、酸欠をおこし易い。2日おきに水交換をすること

3) 浸種時

- ①同一の容器（オケ等）に異なる品種を入れ浸種しない。
- ②種子と水との容量比は1：1.5～2程度とする。 【例】種子 100kg：水 150～200ℓ
- ③水の交換回数は控えめにする。目安は10日間で2回程度。1回目の交換までの期間を長めにする。

（交換のローテーション例・10日間の場合）



- ④浸種終了の外観的目安は、籾を透かして胚が白くなったときが理想。

4) 催芽時

- ①催芽温度は30℃～32℃でおこなう。
- ②異なる品種を同時に催芽しない。
- ③品種毎に催芽機内を（水洗い）洗浄する。

【3. 催芽～催芽ムラが見られる場合は全体の80%以上の芽が切れるまで催芽を継続～】

目安時間のため、催芽状態を随時確かめながら揃いの良い催芽を心掛けてください。

品 種	ゆめ おばこ	きぬの はだ	ときめき もち	ちほ みのり	あきた こまち	サキホコレ	萌えみのり	たつこもち
催芽目安時間	24h				30～36h		40～48h	

- 1) 発芽最適温度は32℃で、発芽にかかる時間や発芽揃いが良好とされています。それより高温になると発芽は早いですが異常となり、45℃以上は危険温度、50℃では10時間経過するとすべての籾が死んでしまうので、くれぐれも40℃以上にならないよう注意する。催芽機の設定温度以上に水温が上がる可能性があるため、直射日光が長時間当たる場所での催芽は避ける。

- 2) 催芽時に酸素が不足すると、幼芽だけが伸び、幼根は伸びないので注意する。

★催芽を揃える方法（酸素供給剤）

- ①種籾専用酸素供給剤 活水 100倍 【浸種の後半～催芽時に1～2回実施】
- ②アミノ酸入酸素供給剤 ハニサンソ
【催芽前に50倍で、12～20時間浸種後水分を良く切ってから催芽を行うこと。】
- ③浸種中も水温が低くなる場合はお湯を足すなど、出来るだけ10℃以下にならないよう努める。

※ 農薬の使用に当たっては使用方法を確認し、環境に配慮した施用量等を心がけてください。

「水稻技術情報」<https://www.ja-ogata.or.jp/farming2/>をホームページで閲覧の際は、これまで必要だったパスワード入力なしで閲覧可能になりました。

※水稻以外の技術情報は、これまで通りパスワードの入力が必要です。